

旧鶺沼宿・旧中山道地区

(岐阜県各務原市)

- 計画期間 平成18年度～平成22年度
- 面積 10.0ha
- 交付対象事業費 1,229百万円
- 市人口 149,488人(地区内人口 1,066人)

地区概要 歴史的建造物の修復・復元、中山道の交通量削減対策やせせらぎ水路の復元などを地域住民と協働で行うことにより、地域の絆づくりや賑わいの創出を図る。

ポイント 歴史的建造物の修復・復元と歩行者優先の道路整備による中山道のまちなみ再生

目標

- 大目標:『歴史街道である旧鶺沼宿・旧中山道のまちなみ再生』
- 目標1:歴史的文化遺産の活用による魅力・活気あふれるまちづくりの推進
- 目標2:みんなが安心して楽しめる沿道空間の創出

指標

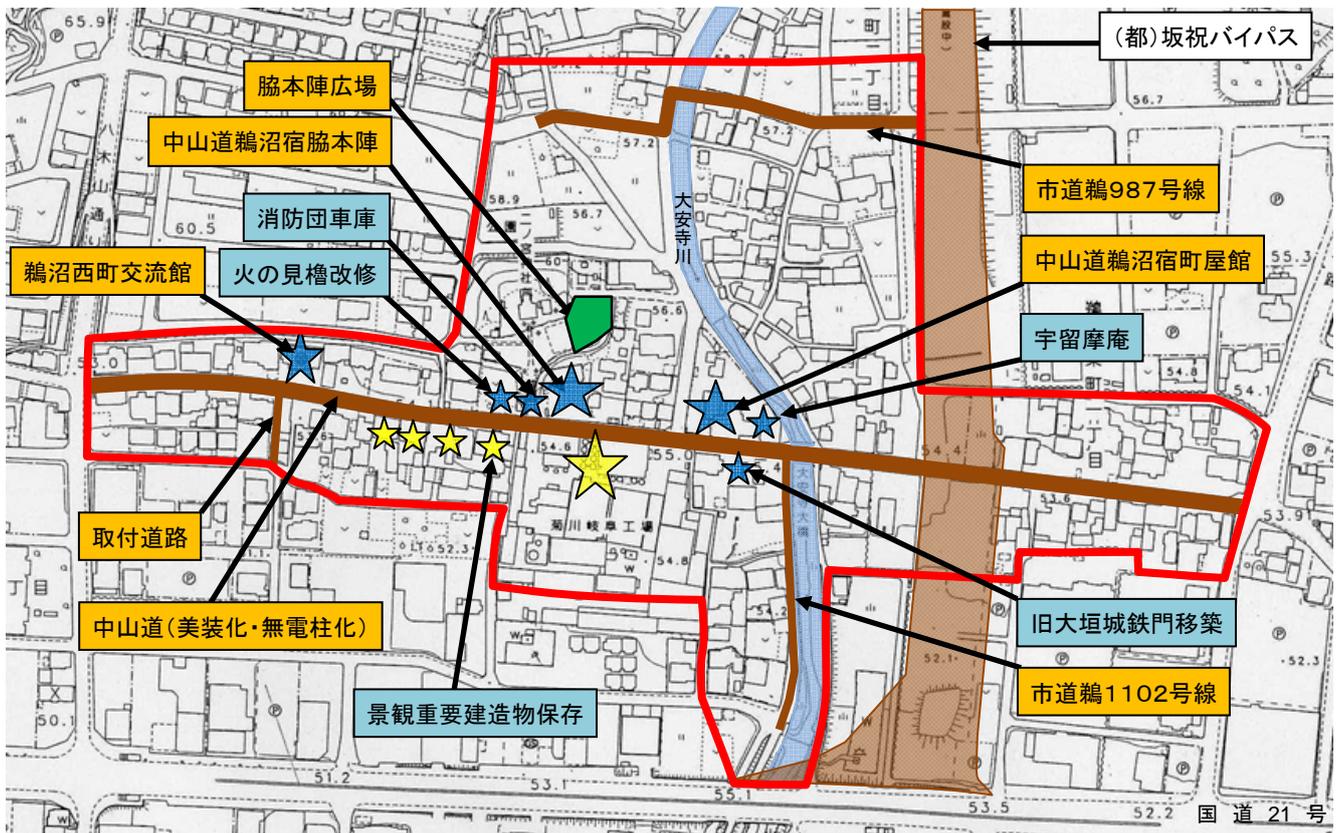
歩行者優先の道路整備による歩行者の快適性の向上、回遊性の向上及び、市民活動の活性化を目標とした。

指標	単位	従前値		目標値		確定値	
			基準年度		目標年度		年度
歩行快適度	%	0(%)	H17	60(%)	H22	78(%)	H23
来訪者滞留時間	h	0.5(h)	H17	1.5(h)	H22	1.5(h)	H23
まちづくり活動参加者数	人	30(人)	H17	50(人)	H22	88(人)	H23

事業内容

基幹事業 (1,025 百万円) →道路 (3 路線、幅員 4m～8m、延長 390m)、中山道 (美装化等 幅員 7.5m 延長 615m、無電柱化 延長 320m)、中山道鶺沼宿町屋館 (460 m²)、中山道鶺沼宿脇本陣 (290 m²)、脇本陣広場 (540 m²)、鶺沼西町交流館 (410 m²)

提案事業 (204 百万円) →景観重要建造物保存 (5カ所)、宇留摩庵 (180 m²)、火の見櫓改修 (1カ所)、旧大垣城鉄門移築 (1カ所)、消防団車庫 (30 m²)



地区の現況と課題

歴史的建造物は数多く存在していたが、建替え等により失われる恐れがあった。また、中山道は、非常に多い交通量により、歴史的趣とはかけ離れた雰囲気となっていた。

事業の特徴

中山道の交通量削減対策

まちづくりの会との話し合いにより、中山道の車道幅員の減少や狭窄部の設置、周辺道路整備を行っている。交通量は、計画当初の12,000台/日から4,000台/日へと激減している。

景観重要建造物の保存

歴史的建造物を将来にわたって保存していくため、景観法に基づく景観重要建造物に指定し、外観の修景に対して助成している。



交通量の減った中山道（整備後）

まちづくりの効果、持続的取り組み

住民参加

まちづくりの会との意見交換会を39回（H18-H23）開催している。整備計画だけでなく、整備後の維持管理や利活用等についても検討を行っている。この会により、完成した施設の一部管理や街道の清掃が行われるようになっている。また、ボランティアガイドの会、木遣保存会など多くのボランティア団体が発足している。

発展的取り組み

完成を契機に、隣接市である愛知県犬山市と「まちづくり盟約」を締結し、歴史をキーワードとして、国宝犬山城と連携して様々な施策を展開していくことにしている。



中山道（整備前）



復元したせせらぎ水路

各務原市長のコメント

質の良い都市は三つの条件が必要です。都市の中の自然、都市の中の歴史、都市の中の文化です。市北部につらなる大都市林、市南部を大河・木曽川が流れ、その間にひらけた各務野台地。この理想的な地勢から、本市には、およそ縄文中期、約5000年以上前から人々が住みつづけています。

中山道鶴沼宿は、史的文化の香り高いオールドタウンとして再生しました。周辺には、国の重要有形民俗文化財の「村国座」など歴史建造物が集積しており、歴史街道の誕生です。

今後、さらなるまちづくりを強力に推進し、また全国に発信して、各務原市の「都市ブランド」確立の一助としていきます。



修復した町屋館（整備後）



町屋館（整備前）



完成記念祭風景

まちづくりの会長のコメント

中山道鶴沼宿に生まれ育った者として、古いまちなみが次第に消えて行くことに問題を感じていました。平成16年に市より再生の話が出されて以来、まちづくりに参画し住民の立場から種々提言を行い、昨年9月再生事業のハード部分が完成しました。これからは本来の目的である如何に人が集まり、交流することで絆を深めるかという事業のソフト部分に注力しようと考え、昨年5月木遣保存会を立ち上げ、今年子供木遣保存会を立ち上げて将来に向け傳承していく等、色々なイベントを開催しながら、近隣自治体との交流も深め、人々が楽しめるまちづくりを続けたいと考えています。

ボランティアガイドの会長のコメント

まちづくり効果賞に選ばれ、ボランティアガイドとして大変喜ばしく感じています。鶴沼宿は魅力あるものに生まれ変わりました。宿場の片隅の常夜灯などが、これまでも増して存在感を示しています。「東路にここをうるまということは行きかふ人のあればなりけり」（源重之）蘇った鶴沼宿に往時の賑わいが復帰します。より多くの方にお越しいただき、楽しく過ごしていただけるようこれからも、心を込めたご案内をすすめてまいります。



復元した脇本陣



まちづくりの会



ボランティアガイド